



切磋琢磨 —消防人 夏の祭典—

7/13 村消防訓練大会

6月定例会議・7月臨時会議

2学期から 学校給食費無料化へ



村長選挙後の初議会となった6月定例会議は、10日から13日までの4日間の会期で開催されました。

人事1件、条例など3件、契約締結4件、補正予算4件、専決処分等の報告など6件の合計18件と陳情1件を採択とし、議員発議を含む意見書など2件をすべて全会一致で原案のとおり、同意・承認・可決しました。

また、一般質問は2議員が登壇し、村政をただしました。

公約に3本の柱を掲げる

任期満了に伴う村長選挙において無投票当選を果たした佐々木村長は、5期目に突入しました。

村長選挙に向けて発表した公約では、次のように3本の柱を掲げています。(後援会会報「めばえ」から抜粋)

1 子育て環境整備充実

- ・ 保育園から中学校まで一貫した支援制度の拡充
- ・ 高校生通学バス費助成拡大並びに奨学金制度の充実
- ・ 小中学校の給食費用の無料化の実現
- ・ 学校給食センターの移転
- ・ 保育内容の充実と働く環境の支援
- ・ 小・中学校のグローバル教育の推進
- ・ 子育て住宅リフォーム事業の助成拡大

一般会計は大型補正予算

第1号と2号で6億8040万円の追加

村長選挙により骨格予算となっていた一般会計は、「小中学校給食費の無料化」や「高校生通学バス費の助成拡大」など公約としていた政策予算を肉付けしました。

補正額は、第1号（6月定例会議）で、4億266万円、第2号（7月臨時会議）で2億7774万円、合計6億8040万円の追加補正となりました。

※主な内容は、7ページと10ページに掲載

最大の課題は人口減少対策
道州制導入には反対の姿勢

また、6月定例会議冒頭に施政方針が示され、国・政府が進める道州制導入には反対の姿勢を表明し、5期目で取り組む最大の課題として人口減少対策を挙げました。



成瀬ダム工事現場、周辺の整備計画作成の予算も計上されました

2 生産（産業） 基盤の整備振興と充実

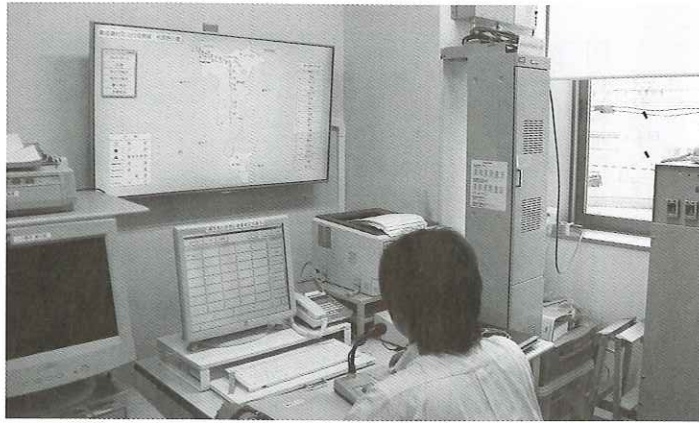
- ・ 中山間農地の圃場整備支援とコメ対策の充実
- ・ 畜産の積極的な推進と雇用の確保
- ・ 森林の保育充実と計画的な事業の推進
- ・ 奨励農作物の栽培拡大と花卉栽培の支援強化並びに担い手の育成
- ・ 6次化産業の積極的な推進
- ・ 観光・物産販売事業と新たな魅力発見事業の積極推進
- ・ 成瀬ダム事業の波及効果を活用した活性化対策の推進

3 住みよい生活環境の整備充実

- ・ 福祉・医療施設と在宅医療、健康・検診、不妊治療事業の充実強化の促進
- ・ 高齢者世帯の生活支援対策の充実
- ・ 福祉施設の効率的な運営促進
- ・ 防災対策の充実強化の推進
- ・ 統合簡易水道の整備促進
- ・ 生活道路・水路の積極的な整備促進と除雪・克雪対策の充実強化
- ・ 新たな住宅（アパート）団地の整備促進
- ・ イターン・Jターン・Uターン者への支援対策
- ・ テレビ・ラジオ難視聴解消対策の促進
- ・ 交流人口、定住人口対策への積極的な支援

主な質疑

災害時の情報伝達を確立！ 村防災行政無線施設設置条例を制定



防災情報センターに設置された防災行政無線親局の設備

6月定例会議最終日となった13日に議案に対する質疑が行われました。

条例などの主な内容と質疑を要約してお伝えします。

○村防災行政無線施設設置条例

災害等の緊急時における情報の伝達と一般的な行政情報の伝達の円滑化を図るため防災行政無線を設置するための条例。

質問 条例の内容ではないが、現在取り付けている戸別受信機で、特にアンテナを取り付けなければならぬ高齢者世帯で、取り付け場所について業者の方が雪国であることを十分認識しているか。

答弁 民生委員の定例会等でそのような世帯に対する防災無線の設置状況の情報提供を受けている。アンテナ

ナの件は、電波が入る方向と雪が積もる方向が同じだったりして問題点が生じていることは把握しており、屋根の軒下に水平アンテナを取り付けなど考えている。
対応できる家庭、できない家庭もあり話し合いを進めている。

国保引き上げ、課税所得の減少に対応。財源を確保するねらいも

○国民健康保険条例の一部を改正

平成25年分の課税所得金額が減少する見込みであり、現行の税率で課税した場合に、課税総額が減少することと応能割と応益割のバランスを維持するため税率の改正を行った。
また、背景には国保財政が逼迫しており財源の確保を図るための改正ともとれる。

質問 改正に対する資料では減収のために税率を上げるとなっているが、この改正により増収額はどれくらいになるか。また、1人当たりの負担はどれくらい増えるのか。

答弁 昨年度7月1日現在の本算定時に比べ、全体で107万円が増収となる。また、1人当たり1380円の増額となる。

人事

欠員が生じた村監査委員の人事案が提出され全会一致で同意しました。

代表監査委員



吉田 正 氏
(田子内 66歳)
【新任】

(任期) 平成26年6月16日から平成30年6月15日まで

秋田県後期高齢者医療広域連合議会議員

本村から選出する秋田県後期高齢者医療広域連合議会議員が5月末で任期満了となり、議長の名指推薦による選挙で、佐々木村長の再選を全会一致で決定しました。

(任期) 平成30年5月31日まで

契約

○簡易水道事業配水管布設工事（1工区）

契約額 5400万円
相手方 佐々木・ますだ特定共同

企業体（東成瀬村）

○簡易水道事業配水管布設工事（2工区）

契約額 5735万円
相手方 鈴木・岡田特定共同企業

体（東成瀬村）

○簡易水道事業配水管布設工事（3工区）

契約額 6575万円
相手方 高橋土木・岩野・備前特

定共同企業体（東成瀬村）

○簡易水道事業配水管布設工事（4工区）

契約額 6048万円
相手方 大橋・横手水道特定共同

企業体（東成瀬村）



簡易水道事業配水管布設工事（4工区）

6月定例会議議決事項名

村監査委員の選任 ※吉田氏を選任	
東成瀬村防災行政無線施設設置条例	
東成瀬村国民健康保険税条例の一部を改正する条例	
東成瀬村農業委員会の選任による委員の団体推薦に関する条例の一部を改正する条例	
平成26年度東成瀬村一般会計補正予算（第1号）	
平成26年度東成瀬村介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）補正予算（第1号）	
平成26年度東成瀬村下水道事業特別会計補正予算（第1号）	
平成26年度東成瀬村介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）への繰入れ	
工事請負契約の締結 ※簡易水道事業配水管布設工事（第1工区）	
工事請負契約の締結 ※簡易水道事業配水管布設工事（第2工区）	
工事請負契約の締結 ※簡易水道事業配水管布設工事（第3工区）	
工事請負契約の締結 ※簡易水道事業配水管布設工事（第4工区）	
専決処分等	地方自治法第180条の規定による村長の専決処分の報告 ※平成25年度一般会計補正予算（第10号）
	地方自治法第180条の規定による村長の専決処分の報告 ※平成25年度下水道事業特別会計補正予算（第4号）
	地方自治法第180条の規定による村長の専決処分の報告 ※村税条例等の一部を改正する条例
	地方自治法第180条の規定による村長の専決処分の報告 ※国民健康保険税条例等の一部を改正する条例
	平成25年度東成瀬村事故繰越し繰越計算書
	平成25年度東成瀬村繰越明許費繰越計算書

訃報

平成18年7月から約2期にわたり、村の代表監査委員として村議会に多く関わられた高橋善一さんが、5月20日に逝去されました。当日は、全県の町村等監査委員協議会の総会が羽後町で開催されることになっており、席上、昨年の秋に全国町村監査委員協議会より永年勤続の功労者表彰が授与され、その伝達式が行われる予定でした。

突然の訃報に言葉を失うばかりですが、心からご冥福をお祈りいたします。

6月定例会議冒頭に生前の氏を偲び全員で黙祷を捧げました。



昨年10月東京で開催された監査委員全国研修会の前日に功労者として表彰されました。

質疑白熱

6月定例会議2日目となった11日に予算特別委員会が開かれました。
一般会計の歳出に対する主な質疑の内容を要約してお知らせします。

平成26年度
一般会計補正予算（第1号）

歳出

草地畜産整備基盤整備事業関連

今後のスケジュール

質問 当初より遅れているが、今後のスケジュールは。

答弁 繁殖牛舎が6月いっぱい、肥育牛舎は9月末までとなっている。全体的な予算等は農業公社からいただき、後に示したい。

公園をどうするのか

質問 大柳沼自然公園管理棟に雑用水を引くための工事だが、今後、公園をどのようにするのか示す必要がないか。

答弁 公園を使用したいという団体があり、その団体に指定管理をお願いする予定となっている。

想定しているメンバーは

質問 全県駅伝大会に出場するメンバーはどのような方を想定しているか。

答弁 小中学校は各校に、高校生以上については、ホームペー
ジや広報等で公募するが、人選は難しいと考えている。

この駅伝大会は全県の市町村持ち回りで行うのか。

答弁 県の説明では市を中心として持ち回る意向となっている。

修理は誰が行うか

質問 デジタル無線（防災行政無線）でアンテナが壊れた場合、個人で修理するのか。

答弁 維持管理は村で、雪などで壊れた場合、村で修理をする方向で考えている。

障害者への対応

質問 耳、目など高齢的な障害を持つ方へのデジタル無線戸別受信機の対応は。

答弁 耳の不自由な方でも利用できる戸別受信機を設置することで進めている。



大柳沼自然公園は指定管理を予定

用地購入の説明を

質問 用地購入と工事費との関連について伺う。

答弁 用地購入は雪崩防止の工事に係るもので、工事費は、松ヶ沢からの取水の水路整備となっている。

観光施設、修繕の内容は

質問 観光費の修繕料はスキー場、栗駒山荘、須川湖との説明だが、その内容は。

答弁 スキー場は駐車場の一部補修、ホテル・プランは電気、浴槽の手すりなどの修繕で、山荘はロールスクリーン、須川湖キャンプ場は雪害の小破修繕となっている。

小学校、遊具工事の内容は

質問 小学校の遊具工事は雪で壊れたとの説明だが、どのような工事を行うのか。

答弁 校庭の遊具で今冬の豪雪により使用不能となった。撤去し新たに遊具を設置するが、丈夫な材料で冬囲いをする。

ゆるるんの放送設備とは

質問 ゆるるんの放送設備改修は、どのような内容か、また、国文祭のために行うものか。

答弁 体育館・ステージの放送が館外ホールに聴こえない状況であり、国文祭の昔語りの運営上、不都合があるため行う。

再質問 消防設備などの放送とは別と考えてよいか。

答弁 非常用放送とは別になる。

農村交流センター改修の内容は

質問 農村交流センター（田子内）の落雪に対する工事の具体的な内容は。

答弁 現在の屋根をほぼ平らな屋根に改修する。

再質問 雪下ろしは指定管理の田子内自治会で承しているか。

答弁 自治会長には改修計画の内容を示している。地区で対応出来ない場合は協議することとしている。

26年度一般会計補正予算(第1号)の主なもの

歳入	
○分担金及び負担金	
保育所広域入所分負担金	106万円
○国庫支出金	
保育所運営費負担金の増	47万円
がんばる地域交付金	6,300万円
○県支出金	
保育所運営費負担金の増	23万円
災害弔慰金負担金	188万円
森林環境保全整備事業費補助金	306万円
県単夢プラン事業費補助金の増	120万円
森林整備地域活動支援交付金	86万円
○繰入金	
財政調整基金繰入金の増	1億1,900万円
○諸収入	
市町村振興助成金	879万円
○村債	
過疎対策事業債の増	2億160万円
歳出	
○総務費	
ホームページリニューアル等	295万円
ゆるるんの放送設備改修など	235万円
公有林整備事業	1,869万円
○民生費	
介護保険(介護サービス事業)特別会計操出金の追加	1,861万円
保育所広域入所委託料の追加	124万円
罹災扶助費(雪害の弔慰金)	250万円
○農林水産業費	
農地中間管理機構受託	710万円
農村交流センター改修費	3,064万円
ミニライスセンター建設事業(田子内)	1億6,765万円
県単夢プラン事業費補助金の追加	120万円
草地畜産基盤整備事業	1億70万円
遠藤堰・伊達堰、小貫山堰等の改修測量設計費	500万円
人と里がふれあう歩道開設事業	100万円
森林整備地域活動支援交付金	114万円
○商工費	
観光施設改修工事費	2,470万円
○教育費	
小学校遊具工事費	250万円
小学校特別支援教育支援員賃金	158万円

請願・陳情

6月定例会議で1件、7月臨時会議で1件の陳情が提出され、所管する常任委員会に付託し、審査の結果、2件を採択すべきものとし、要請に基づき、意見書を提出することに決定しました。

採択とした陳情

【6月定例会議】

○少人数学級の推進などの定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1

復元をはかるための、2015年度政府予算に係る意見書採択に関する陳情

(陳情者) 秋田県教職員組合

執行委員長 山縣 稔 外1名

【7月臨時会議】

○第14回湯沢雄勝農業者大会における「農業経営の確立と食の安全に関する決議」の実現を国に要望する陳情

(陳情者) 第14回湯沢雄勝農業者大会 大会会長(湯沢市農業委員会会長)

半田 好廣

参考人を招致

総務教育民生常任委員会

6月3日、防災情報センターにおいて、総務教育民生常任委員会が開催されました。

この会議では、審議を継続している陳情に対し、有識者の意見を聴くため、柴田弁護士(村の顧問弁護士)を参考人として招致しました。

審議を継続している陳情(2件)

○特定秘密保護法の廃止を求める意見書提出を求める陳情

○特定秘密保護法の廃止を求める陳情



特定秘密保護法について意見を述べる柴田弁護士

佐々木 正 夫 議員

3つの柱と24の公約、どのように実現するか

村長 具体的な施策を展開して公約実現に努力する



質問 3つの柱となっている公約の具体的な施策を伺う。

村長 一つ目の「子育て環境の整備充実」では、小中学校の修学旅行補助金の増額など支援制度の拡大、高校生のバス通学の助成拡大、奨学金の貸付額の充実、小中学校給食費の無料化に取り組む。

保育内容の充実と働く環境の支援では、保護者と協議して具体的な対策を進め、保護者が働きやすい環境を作っていくと捉えてほしい。若い世代が働ける環境をつくり、子どもを多く産める、育てる環境づくりが行政の大きな役割と考えている。



働ける環境づくりには保育内容の充実が不可欠

二つ目の「生産基盤の整備振興と充実」は、中山間農地のほ場整備と戸別所得補償金の激減対策、飼料米の拡大など、安定した収入の確保を目指し、これらの助成事業に取り組み。また、赤べこの里再生事業を推進し雇用の場を確保したい。

奨励農作物の栽培拡大・花き栽培の支援強化としては、平良カブ、トマト（桃太郎）の契約栽培・一定の価格補償などを考えながら支援していきたい。

6次産業の具体的な推進として、米の加工施設が必要になると考えている。また、赤べこの再生でも、単に肥育繁殖だけでなく、肉の加工まで行う施設整備に向けて努力したい。

三つ目の「住みよい生活環境の整備充実」では、福祉・医療政策として診療所の医師と連携を取りながら、在宅医療の実現・充実。胃がんリスク検診として「ピロリ菌」の

検査、禁煙治療の助成、不妊治療の充実強化を行う。

生活道路・水路の積極的な整備促進と除雪・克雪対策では、流雪側溝のあり方を含め、道路の整備にあわせて、流水と地区の水対策に取り組む。

新たな住宅団地の整備としてアパート建設による村内定住を図るとともに帰郷や移住者に対し、分譲地を用意し、一定期間内の新築に対する支援を検討していく。

交流人口・定住人口対策として準村民制度を創設し、これら交流人口と村の実際の人口を合わせて5000人を目標にして取り組んでいく。

農業所得に目標金額設定を

質問 農業の担い手を確保するためにも大きな目標として、例えば「農業所得500万円を目指す」といった具体的な目標金額を掲げられないか。

村長 現実には、非常に厳しい状況にある。米を中心とした3法人は黒字であり、今後法人を中心とした農業経営への期待が大きい。

法人化への集約が進むことによる農作業から得る賃金は、今後も増加してくると思うし、雇用されている担い手が少しずつ増加している。

佐々木 正利 議員

5期目、重点的に取り組む課題は

村長 人口減少対策が最大の課題となる

質問 何に対して重点的に力を入れていくつもりか。将来における村の問題点、課題点と繋がると思うが、どの様に捉えているか。

村長 特に大事なこととなるのは、人口減、人材という感じがしており、人口減少について真剣に取り組まなければならぬ問題だと思う。今回取り上げた「子育て環境の整備・充実」を中心に、子育て環境・人材育成といった人口減少対策が大きな課題ではないかと思う。

ごみ投棄対策について

質問 毎年、集落単位で国道342号線などのゴミ拾い活

動を行っているが空き缶などの投棄が後を絶たない。広報活動など、どのようなことを行っているか。

村長 かつては、村でも運動を強化して、かなり丁寧に看板を立てた経緯があった。ポイ捨ての看板は1カ所か2カ所あるが、日本で最も美しい村連合ですから、看板も十分に配慮しながら啓発に努めている。

質問 村内における山林原野、河川へのごみの不法投棄の現状と監視体制はどうなっているか。

村長 昨年10月、6カ所の不法投棄場所があり、冷蔵庫等が約1トン、タイヤを100

本撤去した。

監視員を2名から3名に増員し、26年度は60回巡回する予定としている。5月30日には15カ所の不法投棄の確認と河川の監視も行った。徹底した広報活動、予防、防止に努めたい。

木材の活用について

質問 山林原野が93%にあよぶ本村において木材を活用した椅子やベンチを見かけない。村の特色を表す意味でも、もっと木材を活用する考えはないか。

村長 コンクリートのものであっても、最近の雪の場合かまわれないでよくと壊れてし

まう。そういったことからすると、地べたについても安定性のあるような丸太材など使ってベンチ代わりにする工夫が必要ではないかと思う。総合的に判断しながら木材の活用という視点で、庁内や関係機関とも協議しながら進めていきたい。



村は大きな森林資源を持っています

通学路の安全確保について

質問 ひと冬越すとガードレールの破損、道路の凹凸など見えてくるが、地域、PTAから寄せられる危険箇所の把握はどの様になっているか。

教育長 通学路については、毎年、新年度が始まる前に、教育委員会、小中学校の先生方が地域を回り、危険箇所や施設などの安全確保の把握を行った結果により建設課などを中心に連絡をとり、適切に対処するよう努力している。

地域やPTAからの情報は大変ありがたく、学校や関係機関で情報を共有することも、速やかに対応するよう努めている。



7月臨時会議

一般会計は2億7774万円の追加補正 総額は37億8240万円に

7月3日に臨時会議が開かれ、議会推薦の農業委員など7件の案件をすべて全会一致で可決しました。

村長の公約などが盛り込まれた一般会計補正予算(第2号)は予算特別委員会で審査を行いました。

◆◆◆一般会計補正予算(第2号)の主な内容◆◆◆

庁舎暖房設備改修	2,600万円
準村民制度創設費	150万円
高校生バス通学費補助(拡大)	100万円
成瀬ダム水源地整備計画作成	300万円
米利用施設建設	1億1,693万円
農産物加工施設整備	401万円
加工用トマト生産支援助成金	90万円
水路改修工事費	2,300万円
観光施設改修	700万円
道路維持補修・新設改良	2,900万円
カントリーパーク管理事務所補修	900万円
防災用備蓄品購入	100万円
中学校食堂アルミサッシ設置	765万円
ふる里館改修	2,344万円
体育協会補助金追加	110万円
小中学校給食費無料化	589万円

平成26年度一般会計予算(第2号)の主な質疑

◇予算特別委員会◇

歳入

分担金がないのは何故か

質問 水路改修で遠藤堰、小貫山堰には分担金があつて伊達堰にない理由はなにか。

答弁 伊達堰は水路の擁壁補修であり、分担金は発生しない。

歳出

バス通学費補助関連

質問 バス通学費補助金で部活などによりバス通学が困難な保護者への支援は検討しているか。また、高校生の何割がバスで通学しているか。

答弁 路線バスの運行維持、保護者の負担軽減が目的で、13人が補助申請を行っている。

何を贈るのか

質問 準村民制度でふるさと納税者など対し、何を贈るのか。

答弁 村の加工品や米を想定している。

収入見込み

質問 米利用(加工)施設において精米などによる収入はどれくらいか。完成後の運営形態は。

答弁 約70から80万円の収入見込みで、運営は指定管理を予定している。

品不足が続いているか

質問 特産品のトマトケチャップやピューレなど品不足が続いている。生産・加工体制を見直す必要はないか。

答弁 今年度は加工用トマト生産支援で進め、次年度以降は可能であれば契約生産で加工用トマトの確保に努めたい。

無料化は問題ないか

質問 学校給食法で給食費は保護者負担となっている。無料化に問題はないか。

答弁 保護者の負担の範囲を示したもので負担義務を課したものではない。問題はない。

移転はいつか

質問 給食センターの移転はどうなっているか。

答弁 平成28年度供用開始に向けて進めている。

農業委員に佐藤氏を推薦

任期満了となる農業委員において、議会の推薦委員は次の2名に決定した。



谷藤 怜子氏
(岩井川・62歳)
再任



佐藤 一子氏
(平良・64歳)
新任

- *****
- 7月臨時会議議決事項名
- ・災害対策本部条例の一部改正
- ・平成26年度一般会計補正予算(第2号)
- ・平成26年度国保特別会計(直営診療施設勘定)補正予算(第1号)
- ・平成26年度下水道特別会計補正予算(第2号)
- ・工事請負契約の締結
- ・物品供給売買契約の締結
- ・農業委員会委員の推薦

今年も水路網整備が最多

部落要望を視察

6月6日、総務教育民生、産業建設常任委員会が合同で各地区から提出された新規要望について、地区代表の方から説明を受ける現地調査を実施しました。今年も水路整備の要望が最も多く、24件の要望のうち、12件が水路に関連する要望で、消雪対策として、集落内の水路網の整備のほかに、降雪期における流水管理を容易にするため、水門への建屋施設の設置など4年続きの豪雪が大きく影響しているようです。

また、岩井川地区からは危険家屋解体の要望がありました。



集落内へ流れ込む水路の幅を要望(樺台地区)

定住促進は集落で支える！

平成26年7月8日 京都府 綾部市

総務教育民生常任委員会

里山に囲まれた田園都市

綾部市は、京都府のほぼ中央、京都市から北西に76kmの位置にあり、丹波高原の中にあつて、市街地を清流「由良川」が貫流し、里山に囲まれた緑豊かな田園都市となっています。

また、養蚕を背景に製糸業で発展した下着の大手「ダンゼ」の本社があり、多くの製造業が立地する工業都市の側面もあります。

減り続ける人口に危機感

昭和25年7町村が合併した市制施行で綾部市が誕生しています。その後2回の合併を行っていますが、人口は、市制時の約5万4千人をピークに年々減少し、現在は、約3万4千人で本村と同様に過疎地域に指定されています。

こうした人口減少により集落が消滅する「限界集落」の出現に危機感を持ち、平成12年頃から本格的に定住促進へ取り組みをしています。

交流から定住へ

市では、人々が田舎暮らしや農的 생활へ変化していることに着目し、都市と農村交流を推進するため、NPO法人「里山ねつと・あやべ」を平成12年に立ち

上げ、18年には交流拠点として廃校舎を活用した宿泊施設や交流施設を整備し、定住のきっかけとなる様々な交流事業を展開しています。



廃校舎を宿泊施設に改造した都市と農村交流の拠点施設「里山交流研修センター」。年間運営費の4割は事業収入で賄う。

定住から地域振興へ

平成18年に市内の限界集落を「水源の里」と名付け、交流から定住による地域振興を目指すため、「綾部市水源の里条例」を制定し、定住者への財政的支援や集落の地域振興を施行しています。

定住サポートを一元化

一方、市役所では、平成20年、定住希望者と定住者に対する支援制度や相談を一体的に行う総合窓口を開設し、23年には、定住促進部を創設、定住促進課

観光交流課、水源の里・地域振興課を設置し、交流や定住、地域振興を一括処理・対応する体制整備を行っています。

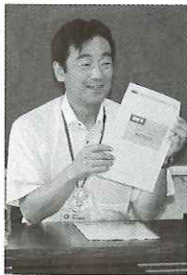
6年間で272人が定住

窓口を開設以降、25年度まで117世帯272人が定住し、定住者の約6割は40歳以下の子育て世代で、約7割が限界集落へ定住しています。

現在、市への移住希望登録者は565人となっています。

集落へ問いかける

定住促進課長の吉田氏は、「このままだと集落がなくなる」と座談会で集落の将来像を問いかけたとのこと。集落では、これをきっかけに定住者を呼び込もうと奮起し、空き家の流動化や都市との交流、定住者をサポートする支援体制など積極的に動き出したとのこと。



定住促進課長 吉田 義典
定住促進課 集落支援
定住促進課 集落支援
定住促進課 集落支援

手作りコンビニ「空山の里」

また、市西部の小畑地域では、学校や農協が合併し、中心地が無くなるなどの危機感を抱き、地域全250世帯が出資し、「ふる

さと振興組合」を設立し、元農協の米蔵を買い取り、住民手作りのコンビニを経営しています。



地域で運営する手作りのコンビニ「空山の里」空山（そらやま）は地域のシンボリックな里山から命名

定住促進への機運醸成を図る

綾部市の定住促進は、空き家を活用しており、定住者がこれらを取得するための低利融資あつせん制度や市外からの転入者へ半年を限度に1ヶ月5万円の給付金制度など、意外に高額な支援が少ないと感じました。

しかし、定住のきっかけとなる交流や定住後の地域との交流、空き家物件の仲介を商工会議所へ月1万円委託するなど定住者の精神的な負担の軽減に力点が置かれていることや市、市民、事業者が一体となり全市的に定住促進への機運醸成を図っています。

結果として、「定住促進は集落で支える」この理念が大きな推進力と感じました。



第67回秋田県消防大会で意見発表を行う佐藤さん

この人に聞きたい

Kaho 突撃

いんたびゅう

今回は第67回秋田県消防大会（6/29於：大仙市）で湯沢市雄勝郡支部の代表で意見発表を行った村消防団、佐藤勝也さんにインタビューしてみました。

かほ 何歳ですか？
佐藤 42歳、独身です。
かほ 都会から大柳地区に移住されたと聞いていますが・・・。
佐藤 ええ、神奈川県横浜市から。
かほ 横浜ではどんな職業を？
佐藤 コンピュータープログラマーです。
かほ 今は？
佐藤 東林業の社員として下刈りとか間伐とかやっています。
かほ エー、全く違う業種ですね。移住されて何年になりますか？
佐藤 8年目になります。
かほ すごい！元祖「地域おこし協力隊」ですね。雪にびっくりりませんか？
佐藤 ええ、びっくりりました(笑)
かほ 先月、大仙市で開催された全県消防大会で意見発表をされたようですが・・・。
佐藤 移住者として誰も知らない場所です不安だったけど消防団に入ったことでいろいろな方との交流や支えがあってこれまでやってくることができた・・・そんな内容です。
かほ 素晴らしい！消防団だとお酒を飲む機会も多いのでは？
佐藤 弱いけど好きです。いつもつぶれて皆さんに迷惑かけています。すみません(笑)
かほ 趣味とか休みはどんなことされていますか？
佐藤 映画かなあ、音楽を聴くとか、休みは・・・結構忙しいですね。部落の作業とか(笑)



真面目な印象の佐藤さんでした

かほ 村のような過疎地では貴方のような人を求めています。都会から田舎に移住した経験をもとに、行政や地区への要望などありませんか？
佐藤 要望ですか・・・考えたこととはありません。地区の方が気にかけてくれますし・・・。
かほ 私も少し都会にいたので、ここでの生活は大変では？
佐藤 よく言われます。でも、すべてがいいところは無いと思います。冬は大変ですが、夏はすごく暮らしやすい。環境がいいです。都会では毎朝、満員電車で通勤でした。それが嫌で嫌で(笑)
かほ ・行政としてはもう少し情報発信が必要かもしれません。こんなことを手伝ってほしい！って。
かほ 最後に永住を望む皆さんへメッセージを！
佐藤 いつもいろいろとありがとうございます。まさかこれほどまでに地域の方々に受け入れられるとは思っていませんでした。本当に感謝しています。これからもよろしく願います。
かほ 今日はお忙しい中、ありがとうございます。いつまでも村にいてください。

暫時休憩

きゆうけい

▼雪解けが心配された今春であったが、まずは順調に春作業が終わりホッと一息。冷夏の予想もされるが定かでない。
 国による農政改革が打ち出され、農業を取り巻く環境が大きく変わるうとしている。

まずは、今年の出来秋に期待したい。

▼6月、県内で山菜（タケノコ）採りの遭難が多発した。

私達も遭難捜索隊という立場から今年も捜索に加わった。3日間の連続である。九死に一生、無事発見、一安心。

「私は大丈夫」という概念を捨て、無理せず、欲張らず、そして、入山のマナーを守り、旬の山菜採りを楽しんでいただきたい。

▼いよいよ夏本番、お互い元気で夏を乗り切りたいものである。

（委員・佐々木謙吉）